

研究便り



令和８年１０月１３日
研究推進便り　　No.５
文責：研究主任

★中学年分科会　3年生の研究授業から学んだこと★

令和８年９月９日（水）
授業者：３年２組　教諭
指導・講評：大田区教育委員会 STEAM 教育推進専門員

中学年分科会の先生方、3年生の先生方、そして授業をされた先生、お疲れ様でした。授業・協議・講師の先生から学んだことをまとめてみました。

①目的を合わせた情報の整理・分析

本時では、フィールドワークで撮影した写真を「見えやすさ」「入りやすさ」などの視点から整理・分析しました。「何のために情報を整理するのか」という目的を意識することの大切さを学びました。思考ツールについても、座標軸やランキングなど、それぞれの特徴を踏まえながら、こどもたちにどのような思考や対話を生み出したいのかに合わせて選んでいくという視点が参考になりました。講師の先生からは、3年生の発達段階を考えると、ランキング形式も一つの方法であるという御助言をいただきました。

②対話が生まれる授業づくり

協議の中では、こどもたちが自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりするための「対話が生まれる仕掛け」についても話題になりました。写真を見ながら理由を伝え合ったり、「一番危険だと思う場所はどこだろう」と比較したりするなど、こどもたちが自然と話したくなるような場面をつくることについて考える機会となりました。また、講師の先生からはグループの人数や活動の進め方を工夫することで、一人ひとりの考えを共有しやすくなるという御助言もいただきました。

③「仮の課題」から始まる探求

講師の先生からは、探究の入り口では、まず「危険な場所がありそう」などの仮の課題からスタートするという考え方についてもお話いただきました。フィールドワークやインタビュー、専門家との関わりなどの体験を通して新たな視点を得ることで、「もっと知りたい」「もう一度確かめたい」という思いが生まれ、課題が少しずつ自分事になっていくというお話が印象に残りました。

「おおたの未来づくりにつなげて」

今回の研究授業を通して、「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」という探究の過程を意識しながら、こどもたちの思いや気付きから次の学びへつなげていくことについて考えることができました。
一つの単元の中でも、小さな探究のサイクルを繰り返しながら、こどもたちの気付きや疑問を次の学びへとつなげていくという視点は、「おおたの未来づくり」の授業づくりにも生かしていけそうです。

また、フィールドワークやインタビュー、授業パートナーとの関わりなど、地域の「人・もの・こと」と関わる体験が、新たな気付きや考えを生み出すきっかけになることも学びました。

今後も、こうした関わりや体験を大切にしながら、こどもたちの「もっと知りたい」「やってみたい」が次の探究につながる授業づくりについて、みんなで考えていけたらと思います。